

高田短期大学通信

高田短期大学通信 第52号 2017年(平成29年)6月7日 発行 高田短期大学・編集 図書委員会

宿泊研修での学び

学長 栗原 廣海



平成二十九年度がスタートして約二か月が経過しました。新しい学修環境に不安を抱いていた新入生の皆さんも、そろそろ大学生活に慣れてきたのではないかと思います。

先日、「短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに学生・教員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにする」ことを目的として白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で行われた新入生宿泊研修では、ほぼ全員の新入生の皆さんが参加し、充実した研修が実施されました。こども学科の皆さんがゼミ単位で取り組んだ「つくって、あそんで、みせて二〇一七」では、どのグループもオリジナリティーあふれる衣装とおどりを披露されました。キャリア育成学科の皆さんの、ゼミ単位ではなく、新しいグ

ループをつくって行ったグループワーク「先生にインタビュー」では、数多くの質問事項を整理・分類して先生に適切に質問し、回答を引き出すとともに、その結果をまとめて見事にプレゼンテーションしていました。また、こども学科では、二日目の研修として、「すてきな保育者になるために」宿泊研修の振り返りを実施しました。皆さんそれぞれが研修を省察して文字に表現し、それをカテゴリー化してプレゼンテーションしました。

これらの活動をとおして、皆さんには、今後短大での学修を進めていく上で大切な、基礎的な能力が磨かれたのではないかと思います。その能力とは、第一に、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度であり、第二に、思考力・判断力・表現力です。これらは、知識・技能とともに「学力の三要素」と言われるものの二要素です。現代は、グローバル化による社会環境の変化や技術の進歩など、急激な社会変化が見られる時代です。知識や技能のみの習得では、その知識や技能はあっという間に時代遅れの陳腐なものになってしまわないようにも限りません。そうならないようにするためには、社会人になってからも、自ら学び続けなければなら

らないのです。そのために必要な力が、他の人と協力して主体的・能動的に学ぶ力であり、習得した知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力などです。今回の研修には、このような力を今後培っていくためのノウハウが詰め込まれていました。

新入生の皆さんが今回受けられたPR OGテストは、皆さんが短大での学修を始める以前に、このような力をどの程度もって入学してきたのか、今後身につけたい力とはどのような力かを知るためのツールでした。研修を終えた今、皆さんの力がいろんな面で、相当向上していることは間違いありません。本学の教職員は、専門的な知識や技能・技術を教授することとはもちろん、このような力を皆さんがさらに培えるよう、授業をはじめ、あらゆる場面で全力でサポートしていきます。皆さん自身も、努めて、互いに協力しながら、主体的・能動的な学びをするよう心がけてください。

そして、本学の「建学の精神」と「教育の理念」に基づき、「ディプロマ・ポリシー」に記した学修成果を身につけて、地域社会が求めている有為な社会人へと成長されることを教職員一同、心から願っています。

目次

学長のことば	1
学科紹介	
・子ども学科	2
・キャリア育成学科	
オフィスワークコース	3
介護福祉コース	4
トピックス	
・学生自治会、女子バレー部、女子サッカー部	5
・学生生活・学生生活支援	
・新入生宿泊研修、オーストラリア研修	6
・キャリア支援センター、保健室、カウンセリング室	
外国人留学生支援室	7
地域連携施設等	
・仏教教育研究センター、育児文化研究センター、図書館	8
・キャリア研究センター	
介護福祉研究センター	
高大教育交流事業	9
着任、人事、同窓会近況	10
卒業生からのメッセージ、貸借対照表	11
就職状況、編集後記	12



今、保育の質を考える



子ども学科長
千草 篤磨

昨今の保育事情を考えると、様々な問題が溢れています。明治時代の「教育勅語」を暗唱させるなど、理事長が国会に証人喚問されて話題になった大阪市の幼稚園。規定よりも少ない人数の保育士で園を運営し、わずかな給食しか与えなかった姫路市のこども園。一月になって突然「三月末で閉園する」と保護者に伝えた津市内の保育園など。あまりにもお粗末です。一部の保育関係者ではありませんが、保育の根本的な意義を理解していない人達がいます。保育所や幼稚園は、子どもが遊びを通して学び、安心して生活する中で、一人ひとりの発達が保障される場です。そして、そこで働く保育者は、乳幼児の保育・教育の基礎を学んだ専門家でなければなりません。今改めて、保育の質の重要性を考えていきたいと思います。

活動報告

一年生見学実習

五月に高田幼稚園・高田保育園を訪問し、初めての見学実習を行いました。現場の保育者と園児のかかわりを観察したり、直接園児とかかわったりすることで幼児教育の大切さや必要性を知ることができ、将来の保育者像を具体的に描けるようになりました。



オープンキャンパス・高短フェア
高校生を対象に六月と七月にオープンキャンパスを、三月に高短フェアを実施しました。オープンキャンパスでは「授業&実習コーナー」「音楽&保育教材コーナー」「見学コーナー」

二年生での目標



子ども学科二年
角谷 有沙

入学して一年が経ちました。一年間ボランティア活動や実習など充実した日々を過ごすことができました。一年間でボランティアを四回経験することができ、そこで子どもたちと直接触れ合う機会もありました。授業では学べないことを学ぶこ

春季就職特別講座



三月に一年生を対象に、春季就職特別講座を行いました。講座は、内定した二年生による就職活動の経験談から始まりました。この経験談を通して就職活動をする上で必要なことや心構えなどを学びました。また、就職試験に備え、履歴書作成に取り組むなど、就職活動への意識を高めることができました。

とができても印象に残っています。また、初めての実習では悩んでしまうことばかりでした。しかし、指導をしてくださる先生方や仲間たちと一緒に乗り越えることができ、改めて保育者としてのやりがいを実感することができました。残りの一年間でも積極的にボランティアに参加し、実習でもより高い目標を持ち学びを深めていきたいです。周りをよく見て子どもたち同士の関係を繋いでいけるような保育士になりたいです。

研究余滴



専門家について考える

長倉 里加

男性保育士の歴史をみると、1977年より男性も保育の仕事に従事することが出来るようになった。しかし、保育士は元来女性の仕事とされてきたこともあり、当時の保育に従事する男性は保育士と呼ばれず、通称「保父」と呼ばれていた。1999年男女雇用機会均等法の改正に伴い、男女の区別のない「保育士」に名称が統一された。2016年、男性保育士の割合は約3%であるが、増加傾向である。つい最近、「女児の着替えやおむつ交換を男性保育士がするこ

高田短期大学に入学して



子ども学科一年
中川 莉子

もうすぐ入学して一か月が経ちます。大学の授業は高校とは違って、板書する先生は少ないです。すし、時間も長いので心配でした。また、二年後には自分が保育者として働いている、ということに、不安や責任を感じます。しかし、先生の実体験や、知らなかったことをたくさん学

と」に対して様々な議論が起きた。一部の保護者から、子どもの着替えを男性にさせないでほしいと要望があり、男性保育士が行うことに対する賛否である。

私達は病院で受診する時に担当の医師が男性であることに抵抗を感じることは少ないのではないかと。理由として、男性医師に対して男性としてではなく専門家としてみているからではないか。なぜ男性保育士が子どもの着替えやおむつ交換をすることに一部の保護者は抵抗を感じるのか。もちろん男女という性差は必ずあり、今後も十分に配慮する必要がある。しかし保育士は国家資格をもつ保育の専門家である。このような議論が起こることに違和感を感じる社会になってほしい。

ぶことができるとても充実しています。新しい環境で、新しい友達ができ、まだ慣れていないところもありますが、みんな同じ目標を持っていると思うと、とても心強く感じます。仲間と楽しむ時は思い切り楽しみたい、協力し合い励まし合いたい、目標に向かって進んでいきたいです。二年間はとも短いと思いますが、多くのことを学び、身につけ、園児一人一人の気持ちに寄り添うことができたいです。

キャリア 育成学科 オフィスワークコース



就職はゴールではない

キャリア育成学科
オフィスワークコース長
野呂 健一

今年度オフィスワークコースは六四名の新入生を迎えました。本コースの学生のほとんどは入学時の希望どおり、三重県内企業等への就職を実現しています。しかし、就職はゴールではなく通過点にすぎません。それぞれの職場で「あなたでなければ」と頼りにされる存在になり、充実した職業生活を送ることを目指してほしいと思います。信頼されるオフィスワーカーとなるには、ビジネスや会計、IT等に関する専門技能だけでなく、コミュニケーション力や課題発見・解決力などの汎用的能力が必要です。これらの力は書籍を読んだり講義を聴いたりするだけでなく、主体的に学び行動するなかで身につけていくものです。学生のそのような学びを支えるために、カリキュラムや教育方法を絶えず改善するなど、教員一同、教育研究活動に一層の努力をしております。

活動報告

社会体験

夏季休暇を利用して約十日間にわたる社会体験実習にオフィスワークコース一年の多くの学生が参加しました。科目開設十九年目となる昨年度は、六八人の学生が官公庁、自動車販売店、ホテル、百貨店など県内二七の実習先に分かれて体験を行い、実習先の指導者から指導を受けました。九月末には、社会体験実習で一人ひとりが、実習内容や身につけたこと、今後の課題などをパワーポイントで発表しました。



高短祭展示

十月の高短祭において、イベントや模擬店で盛り上がる中、オフィスワークコースでは一年生が前期のスタートアップゼミナールで学んだことを活かして、それぞれの活動をまとめ、ポスターや映像の展示で紹介しました。津市中心地市街地活性化に向けた提案を行ったゼミもあります。各ゼミの特色を反映したバラエティに富んだ内容に、来場した方々も足を止め、興味深く見ていました。自ら情報を収集し、まとめるという活動が、二年生の卒業研究レポートに活かされることを期待します。



最後の学生生活



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年
西井 緑

入学して、一年が経ちました。一年生では資格取得や社会体験実習など新しいことを学ぶ機会がたくさんあり、一日一日がとても早かったです。時間が足りないと感じることは多いですが、その分毎日が充実しています。就職活動も始まり、不安は尽きません。ですが、何をしたらいいかわからない状態でも、今、

入学時の決意



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年
玉野 成美

入学してまだ少ししか経っていませんが、毎日が新鮮で充実した日々を送っています。新しい友人もたくさんでき、昼休みに一緒に食堂で弁当を食べたり、授業の空き時間に談笑したりしている時がとても楽しいです。

研究余滴



色の力を侮ることなかれ!

海住 信行

高校で三六年間簿記を指導し、本学で「教養として国民の誰もが学ぶ簿記」の指導教材と指導法の研究をしている。企業のみならず国民誰もが、納税の義務を負う。その税金は、簿記によって計算される。すなわち簿記は国民すべての必須アイテムといえる。さて、この簿記の教材を作り、授業を進めていく中で、色の力を改めて実感した。メラビアンの法則は、視覚の力を高く評価する。これまで、言葉の力を中

また、高校とは授業の形態が異なり初めて学ぶ事が多いので、戸惑いもありましたが、どの授業もわかりやすく丁寧に教えていただき、自分の身になっていくと実感しています。来年のこの時期には就職活動が始まり、短大生活はあつという間だと考えると気が引き締まります。一日一日を大切に内容の濃いものにし、「あなたでなければ!」と言われるオフィスワーカーになります。

心に、教材を組み立ててきた。簿記を初めて学ぶとき、専門用語が飛び交い、さらに記帳作業を求められる。たとえば、現金出納帳(家計簿・小遣い帳とよばれる)に、現金の出入りを記入するとき、書くべき場所を色づけしておく。色の力によって、正解へ誘導し、できたという達成感を引き出す狙いである。さらに、解答で確認できるようにすれば、初学者も容易に記帳を完成できる。出来た喜びが、次の意欲に結びつく。授業は、学生と教師の信頼に裏付けられたコミュニケーションである。提出課題の出来栄に、「君たちのやる気を受け取った。私も、君たちの可能性へのチャレンジの機会を提供する」と語れる授業を学生とともに創っていきたい。

キャリア 育成学科 介護福祉コース



高齢社会を支える人材確保の風



キャリア育成学科
介護福祉コース准教授
福田 洋子

平成二八年度に検討されていた外国人の介護福祉職としての受け入れ施策が、いよいよ今年度から本格的に実施されることになり、キャリア育成学科介護福祉コースに介護福祉士を目指す留学生が、これまで以上に入学してきました。

留学生は、慣れない生活環境の中で、日本語の強化とともに、介護福祉士としての基礎知識、基礎技術を学んでいます。日本語の壁は厚く、悪戦苦闘している彼らの一生懸命さが、日本人学生の良い刺激になればと考えております。

介護福祉コースでは「やわらか心」を理念として、対象者の自立支援と尊厳を尊重した介護が提供できる教育を目指しています。どうかすると、希薄な人間関係になりがちな現代社会で、留学生たちが、言葉の壁を乗り越えた、人間対人間の介護ができる介護福祉士となり、介護業界の追い風になってくれることを願っています。今後も、質の高い介護福祉士養成に取り組んでまいります。

活動報告

キャリア育成学科介護福祉コースでは、一年次、二年次合わせて四五〇時間の施設実習を行っています。大学内の授業で学んだ基本的な知識や技術を実践の場で深める貴重な時間です。学生たちは、毎回緊張しながらも様々な介護場面にチャレンジし、利用者をはじめ職員の方々にお世話になります。

最終日には「もう、明日からは来てくれやんのか。さびしいなあ」と温かいお



一年間を振り返って



キャリア育成学科
介護福祉コース二年
堀江 紗弥加

入学してから一年が経ちました。入学当初は、これからやっつけていけるのか不安でしたが、新しい友達もでき、一日過ぎていくのが早く、充実した日々を過ごすことができました。

二月末から特別養護老人ホームで二十日間の介護実習を体験しました。夜勤もあり大変でした。

言葉をかけてくださる利用者との出会いなどが、後の学習意欲を高めることにつながっています。



地域の高齢者との連携事業

また、本学介護福祉研究センターと連携して鈴鹿市白子公民館の高齢者の方々と交流する事業も行いました。学生が向ういていく場合が中心です。昨年十一月には短大に公民館の方々をお招きして一緒に授業に参加していただいたりレクリエーションを通して交流したりしました。学生たちは普段では見られないたのもしい姿で高齢者と生き生きと関わることができました。

一年生になって



キャリア育成学科
介護福祉コース一年
川政 朱音

キャリア育成学科介護福祉コースに入学して、あつという間に一ヶ月が経ちました。大学に入学する前クラスに馴染めるか、勉強についていけるか、などとても不安でした。入学して一番初めに感じた事は日本人より留学生が多い事です。言語や文化が違う中でどのように接すればよいかなど悩むこ



当事者の思い・家族の思い

中川 千代

私の義母は、軽度認知症のような症状が見え隠れし、今年に入り要介護Ⅰの認定を受けました。ところが、本人にはまったくその自覚がなく、すべてのサービスを拒否しています。地域包括支援センターの職員さんやケアマネジャーさんの見守りや意見をいただきながら私たち家族も遠巻きに支え一人暮らしを続けています。自分も介護分野で長年経験を積み様々な家族をみてきました。しかし、姑のお世話となるとできる範囲は限られ、申し訳ない気持ちです。

とがありましたが新しい友達と一緒に話しかけるうちに留学生の子も沢山話をしてくれてすぐに打ち解け合うことが出来ました。勉強では覚える事が多くとても難しいです。しかし、クラスのみんなと教え合いながら勉強を、みんな楽しんでながら勉強が出来ていると思います。私はみんなで国家資格を取得出来るようにしたいと思います。なので、これからは一人で悩むことなくみんなを楽しみながらコミュニケーションをとり勉強を頑張っていきたいと思っています。

果たして義母は幸せな生活が実現できているのでしょうか。「自閉症の僕が跳びはねる理由」の著者、東田直樹さんは「自分が辛いのは我慢できます。しかし、自分がいることで周りを不幸にしていることには耐えられないのです」と言っておられます。私は義母がいることで不幸になっているとは思っていないつもりですが、行動や言葉の端々にひよつとしたらマイナスオーラが出ている可能性はあるかもしれません。義母がその人らしい生活を継続していくためにどう関わっていくべきか悩み続けています。東田さんの言葉に「色々な見方をする事で人は自分がそれほど不幸ではないことに気がつく」とあります。当事者や家族の思いは深いです。

学生自治会

こんにちは、私たちは学生自治会執行部の十二人です。

今年度から自治会執行部として様々な活動をさせていたいただいています。先輩方からアドバイスをいただいて、少しずつ自分たちの役割を覚えることができました。これから先も、先輩方から学んだことを活かし、自治会活動に励みたいと考えています。

私たちの初めての活動は、一月に行われた新年会です。干支の十二支でチームを作り、椅子取りゲームや餅つき、すごろくゲームなど、それぞれのチームが競い合い、とても盛り上がった行事となりました。五月にはTJC祭を開催します。昨年度よりもさらに盛り上げていきたいと思っています。

四月の新生ガイダンスでは、私たちが中心となって初めて企画と進行を行いました。

そして、十月には高田短期大学の一大イベントである大学祭が行われます。今年度は、十月二十一日(土)と十月二十二日(日)に開催します。大学祭では、皆さんの意見や要望を取り入れ、地域の方々との交流や学



生同士の交流も深め、より良い大学祭にしていきたいと考えております。

学生の皆さんの中に、楽しい思い出として一生残るものになるよう努力していきたいと思えます。

まだまだ不安な面や至らぬ面も多々ございますが、学生皆さんの短大生活をより良いものにしたと考えておりますので、ご意見ご指導の程よろしくお願いたします。



女子バレー部



全力で挑戦

バレー部監督 秋津修

昨年四月部員七名で創部し、春に東海四部スタートから優勝、ブレイオフを経て二部昇格、秋は二部リーグ全勝で一部リーグとの入替戦に勝利し、目標であった一年で一部昇格という大きな目標を達成しました。本年四月より四名の一年生を加え、四月十五日から始まった一部リーグ戦において七チームと対戦し、一部リーグ四位で春リーグを終えました。これから増々厳しい戦いとなりますが、応援していただいている皆様の期待にそえるよう全力で戦っていききたいと思えます。



女子サッカー部



高田短期大学女子サッカー部の活動
女子サッカー部監督 宮本ともみ
平成二八年度より、本校で女子サッカー部が本格的に活動を開始しました。

県リーグでは初参加ながら十一チーム中九位、三重県代表として出場した全日本大学女子サッカー選手権大会東海地区予選では、一勝を上げることができました。初心者も多いなか、励ましあいながら努力を続け、仲間と助け合ったことがこの結果に結びついていると思います。サッカーを通じて一生の仲間と出会えることも魅力のひとつです。今年は昨年以上の結果を残せるように、一生懸命がんばっていききたいと思えます。あたたかいご声援よろしくお願いたします。



平成29年度 新入生宿泊研修



学務委員長 福西 朋子

新入生オリエンテーションの締めくくりとして、四月二一日（金）、二二日（土）に「新入生宿泊研修」を白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で行いました。新緑に囲まれた会場で新入生の初々しい笑顔がはじける二日間となりました。研修への取組み、新しい仲間とのかかわりにより、短大生としての自覚・自立心や協調性を養うこと、そして、学生・教員相互の親睦をはかることができました。学長講話を含む開講式に始まり、学科研修やパターゴルフを実施しました。

○子ども学科

一日目は、毎年恒例の「つくって、あそんで、みせて二〇一七」で、ゼミ毎に子どもを振り付け、衣装製作するかという活動です。限られた時間の中で、どのゼミもアイデア・工夫満載で、その成果が披露されました。作る過程での一体感やチームワークよく取り組む大切さを感じることができました。二日目は、「すてきな保育者になるために」宿泊研修の振り返り

り」と題し、ゼミ毎で二日間の感想を出し合いながら、この研修が保育者を目指すうえで、どのような意義があったのかについてディスカッションを行い、学生同士や教員を交えての親睦を深めることができた二日間でした。



○キャリア育成学科

一日目の学科研修では、「先生にインタビュー」と題して、学生がグループに分かれて学科教員にインタビューを行い、それを取りまとめポスターを作成しました。なぜこの仕事に就いたのか、好きな食べ物、休日の過ごし方などはインタビューし、授業では分からない教員の一面を垣間見ることで教

員と学生の距離がぐっと近づきました。その後、グループメンバーを組みなおし、各ポスターを回って説明を受けるポスターツアーを実施しました。作成した先のグループメンバーが新しいグループメンバーに説明を行いました。また、良いと思ったポスターに投票を行いました。各グループで作ったポスターを説明することで、伝える力の養成にもつながりました。夕食前にはゼミ別研修を行い、親睦を深めました。研修アンケートでは、先生たちのことが知れた。友達が多かった。楽しかったという回答が多くあり、学科・ゼミの「和」をつくる、有意義な研修となりました。



パターゴルフ大会

新入生のほとんどがパターゴルフは初めての経験で、飛びすぎたり、ボールにクラブが当たらないかったりしましたが、元気づけたいグリーンを楽しみました。

オーストラリア研修

オーストラリアで学んだこと、経験したこと

久我 一真

キャリア育成学科介護福祉コース二年

最初は英語も出来ないのにやっていたのか不安でしたが終わってみれば勇気を出してこの研修に参加したことで得られたものが本当にたくさんありました。オーストラリアで出会った人たちはみんないい人ばかりだったので、不安も次第に消えて笑顔が増えて楽しい時間を過ごすことができました。知っている単語をフル活用し無意識に普段はしないような大きなジェスチャーを多く使っていました。研修中に幼稚園、小学校を



訪問し、現地の子供たちと触れあうことができたことは貴重な経験となりました。ホストファミリーと最初会ったとき、こんなにも初対面の人それも日本人を寛大に迎え入れてくれることに感動しました。だからこそ私は、今までの自分だったら受け身で行動出来ませんでした。研修中は積極的に行動し多くのことを学んで帰ろうと決心しました。その結果、ホストファミリーと出会い様々な場所に連れていってもらい、ドロマナの友達と出会い、たくさん時間を共有しあうことで日本では感じられないたくさんを感じ、学び、終わってみれば私はひとまわり大きく成長できたと感じました。今回のオーストラリア研修を自分の将来を築く助けにしていきたいと強く感じました。

キャリア支援センター

キャリア支援センター長 岩間 知之

キャリア支援センターは、二
号館玄関フロアの横にあり、学
生のみならずの就職活動全般を
サポートしています。

左下写真の八名がメンバーで
す。三月の卒業式の時に撮った
ので、正装で何か物々しく、こ
わそうに見えますが、みなさん
のどんな質問や悩みにも優しく
丁寧に応えますから安心してく
ださい。左から順に紹介します。

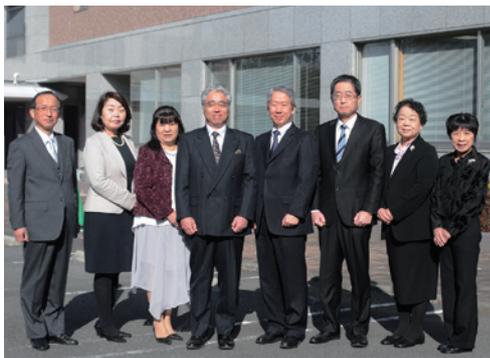
まずは、県内保育所・幼稚園
の全てを熟知している梶間稔先
生です。その隣がCDAキャリ
アカウンセラーで、キャリアア
ンサルタントの国家資格を持つ
野崎千恵先生。次が元公立保育
園長の水野潤子先生。二年後期
『家庭支援論』の先生でもあり
ます。次がセンター長の私で、
隣が高橋孝範先生と小田富彦先
生です。お二人とも元銀行マン
で、支店長をされていましたか
ら、県内企業の状態をつぶさに
把握されています。次が一年前
期の「保育内容（表現）」でお世
話になる元公立幼稚園長の稲田
直子先生。水野、稲田両先生は
高短OGです。最後にセンター
の庶務担当でベテランの横山雅
子先生です。

みなさんがこれから経験する

就職活動では、単に就職先が決
まれば良いと言うものではありません。
むしろ就職決定後こそ
が大切です。活動を通して、社
会人として独り立ちする『覚
悟』を培うとともに、「何のた
めに働くのか」「かけがえのな
い一生をいかに生きるか」とい
う大切な問いに対して、二十歳
の時の「自分なりの答」を見出
して欲しいと願います。私たち
もみなさんと一緒に考えます。
がんばれ！高短生！

「ボランティア活動支援室」

キャリア支援センターの東隣
がボランティア活動支援室で
す。月、水、金曜日に杉谷哲也
先生がおられ、東南アジアの子
どもたちへの国際支援をはじめ
様々な活動を行っています。ぜ
ひ、一度、お訪ねあれ！



保健室

富永 礼子

短大での学びが十分な成果を
挙げるためには、まず心身とも
に健康であることが必要です。
保健室では、皆さんが心身と
もに健康で充実した学生生活を
送れるようお手伝いをしてい
ます。

こころや身体の健康について、
より健康になるためにはどうす
ればいいのかを皆さんと一緒に考
えていきます。社会人になるま
でに、こころと身体の健康を気
遣える人になってください。

学校で体調が悪くなったとき
やケガをしたときは応急処置を
します。ベッドやソファアで休
養もできます。

保健室からは、大切なお知ら
せや健康に関する情報をメール
や掲示板等でお知らせしますの
で、確認して行動に移してくだ
さい。

また、こころや身体のことだ
けでなく、対人関係や将来のこと
と、どんな相談でも大丈夫です。
何か相談したいと思ったとき
困ったときには保健室を訪ねて
みてください。保健室でカウン
セリングの予約もできます。

059-253-7031
保健室直通電話

カウンセリング室

瀬島 美保子

カウンセリングとは広辞苑に
よると「個人のもつ悩みや問題
を解決するため、助言を与える
こと」とされています。助言を
与えるというのは心理カウンセ
ラーとしては違和感があります
が、またそれ以上のことはでき
ないという意味でもあります。

いつも主体は相談する側にあ
りますから、相談に来るか来な
いかも学生の皆さんの自由です。
人は日々何らかの決断をして生
きています。ですからどこかを訪
問するかということも決断の一つ
です。こんなことを相談しても…
と思っている学生さんもおられ
るでしょう。しかしカウンセリ
ング室に来た学生さんは「来てよかつた
」とか「もつと早く来ればよかつた
」と言います。ほんの一步の決
断かもしれないですが、時にその一
歩は大きく自分の世界を変える
こともあります。

カウンセラーはあなたの悩みを
深く理解できる一人になります。
その時々あなたが求める方向を
一緒に探し、少しずつ進んでいく
ことをお手伝いできればと思っ
ています。あなたの前にあるドアをノ
ックしてみませんか。
是非カウンセリング室を訪ね
てみてください。

外国人留学生支援室

外国人留学生支援室長 北川 裕之

外国人留学生支援室では外国
人留学生の学修支援、生活支援
を主として行なっています。今
年度は全員兼務ながらスタッフ
が七名に増員され、各スタッフに
各自の担当留学生を決め、より
きめ細やかな対応が可能となり
ました。具体的には、アルバイト
やアパートに関する相談を受け
たり、留学生への生活用品や電
化製品などの貸与を行ったり、
入国管理局への書類作成およ
び代理申請等を行なっています。
また定期的に留学生ミーティ
ングを開催し情報交換や留学生と
教職員の親睦を図っています。

現在二十三名の留学生が在籍
していますが、出身国もベトナ
ム・スリランカ・ネパール・
フィリピン・モンゴル等多様な
国籍の留学生が在籍しているの
で、介護コース一年生の授業で
は日本語TAを配置して留学生
のサポートを行なっています。
また外国人留学生支援委員会
と協力し昨年度実施した、本学
を卒業した留学生と交流するイ
ベントや、三重県内の見学バス
ツアーは今年度も予定しており、
外国人留学生の短大生活がより
有意義なものになるよう支援し
ていきます。

仏教教育研究センター

センター長 松山 智道
当センターは、本学の建学の精神に基づき、仏教文化の護持発展を目的に活動しています。

その活動内容は、まず第一に、毎月一回、研究会を開催しています。現在は、高田派中興の祖である真慧上人が著された『顕正流義鈔』の研究を進めています。

第二には、図書館に寄贈されている貴重な仏教関連図書および資料の整理と管理を行っています。

第三の活動としては、年に二回、「公開講座」を開催しています。地域の方々に仏教に触

れていただく機会をご提供すること、高田本山教学部との共催にて真宗高田派本山にて開講し、多くの方々が受講されています。



活動は、高田本山寄附講座として、「仏教基礎講座」と「仏教専門講座」を開催しています。

現在、「仏教基礎講座」は八月に五日間（毎日五講座）開講し、「仏教専門講座」は毎月一回（一日五講座）で年十回（十一回目が試験日）の講座となっています。両講座とも高田派の教師・布教使養成の講座であるとともに、地域に開放された地域貢献事業としての講座であり、

一般の多くの方々が受講されています。特に「仏教専門講座」は文部科学省の「履修証明プログラム」として提供し修了者は学校教育法に基づく履修証明書が交付されるので、受講者の励みとなっています。



育児文化研究センター

主任研究員 鷺見 裕子

平成十六年の開設より育児教育、子育て問題、児童文化等の研究活動と、地域社会への貢献と連携をめざし、特色ある子育て支援事業を展開してきました。今年度も地域の子育て課題に目を向けて活動を進めていきます。

*地域子育て支援事業

本学育児文化室で開催する「おやこひろばたかたん」は、七年目を迎えました。今年度は月曜祝日の開催日（七月十七日、十月九日）にファミリーデイを計画します。また、研究員による子育て講座や専任教員による子育て相談も行っており、地域の親子が交流でき、子育てを楽しく、そして学べる場をめざしていきます。



*主催講演会

平成三十年一月二十八日（日）に「要領・指針はなぜ、どう改定されたのか？」と題し、汐見稔幸先生の講演会を開催します。

*地域連携子育て支援事業

行政や地域団体との連携協働による子育て支援事業に参画します。また、津市ひろば支援者の交流会や研修会、保護者研修会の企画・運営を行います。



*学生支援事業

「子育て応援隊」として地域の子育て支援行事や活動に参加する学生に対して、学びにつながる支援をしています。

*研究活動

学内外の研究員が定例研究会やグループ研究で研究を進め、研究紀要「育児文化研究」発行等により研究の成果や情報を発信します。

図書館

図書館の授業支援
図書館長 鷺尾 敦

昨年のオフイスワークコースのスタートアップゼミナールでは、本館の司書が、図書分類や館内利用方法、書誌検索の方法等について指導しました。この機会を利用して出された課題は、ブックレビューちらしの作成でしたが、良い作品は、図書館の書籍案内ポスターとして利用させていただきました。これは本館の授業支援の一つです。

さて、平成二十九年年度、本学図書館は「私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会」の会長校となります。九月の総会準備を始めています。総会では、事業報告や会計報告、本年度の事業計画ならびに予算案を協議しますが、会長校としての色が出るのが、図書館職員のための研修会のテーマでしょう。今年度は「図書館の授業支援をどう進めるか」というテーマで横浜女子短期大学の元司書の方に登壇していただくことになりました。実践報告を聴講した後、会員各館で行っている授業支援や学習支援の取り組みについて報告しあい、意見交換を行います。この機会を通して、短期大学図書館の役割や機能を再確認し、より効果的な図書館の授業支援、学習支援について検討したいと思っています。



キャリア研究センター

センター長 中畑 裕之
 平成二六年六月に発足したキャリア研究センターも三年目を迎え、津市、(株)まちづくり津夢時風(平成二八年六月一日)との連携協定を新たに結び、地域の活性化、相互の発展に資する活動が拡がりました。また、地域で働く方々が日常業務を効率よく、かつ自信を持って行っていただけるよう、就業支援セミナーを開催するなどいたしました。以下に、活動の一部を紹介いたします。

*研究活動

地域活性化、雇用・労働問題、学生のコミュニケーション力向上などに関する研究成果をまとめた「キャリア研究センター紀要・年報」第三号を発行しました。



*連携事業

「津市との連携協定調印」

津市と高田短期大学は津市のまちづくりにおける重要なパートナーとして相互に連携協力することにより相互の発展に資することを目的に、平成二八年八月二四日に津市本庁舎で、連携協定の調印式を行いました。

平成二八年度には、杉浦前センター長が津市総合計画審議会委員に就任し、津市総合計画について調査審議を行うなどしました。

「就業支援セミナー」

「Access入門講座」を連携協定先である百五総合研究所の協力を得て開催し、県内各地の企業の方やボランティア活動をされている方々三四名の参加がありました。アンケート結果では、八五パーセントが「大変参考になる」「まあまあ参考になる」との回答でした。



介護福祉研究センター

主任研究員 徳山 貴英

高田短期大学介護福祉研究センターは本学付属の地域連携施設として、介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域福祉に寄与する機関として様々な事業を展開しています。

昨年度は、①介護福祉等の研究活動に、
 ②地域福祉分野での社会への貢献と連携に関すること、
 ③本学卒業生及び介護福祉に携わる人の研修、
 ④研究紀要の発行に関する活動を柱とした事業を実施しました。

今年度の事業については、本学ホームページをご確認いただき、ご参加いただければ幸いです。



*平成二九年度の主な事業内容

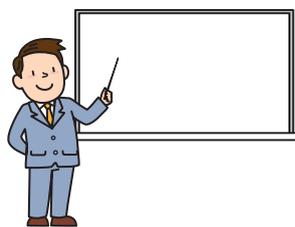
- ・高校生等を対象とした介護福祉啓発活動
- ・高齢者を対象とした介護福祉啓発活動

地域の高齢者を対象とした本学で開催する体験型の講座です。学生とともに様々な介護を体験することが出来ます。

・介護職員キャリアアップ講座
 本センター研究員が講師として、地域の施設へ出向き講義を行います。

・介護福祉セミナー
 今年度は計二回実施します。第一回のセミナーは本学にて六月二五日(日)に開催します。第二回のセミナーは十二月十六日(土)を予定しています。一般の方や卒業生を対象としています。

・定例研究会
 学内外の研究員が専門分野の研究発表を行う場となっております。卒業生や一般の方も参加可能です。



高大教育交流事業

入試広報委員長 野呂 健一

本学は、平成二五年度から高大教育交流事業に取り組んでおり、現在十三の県立高校と協定を結んでいます。各高等学校との教育交流を通じて、ほぼ百パーセントの学生が県内で就職する本学の存在価値を改めて認識していただきたいと考えています。

高大接続の教育課題についての協議や情報交換を行うために「高大教育交流連絡協議会」を年三回、開催しています。昨年度は、初年次教育として新設したスタートアップゼミナールや本学の入試改革についての意見交換、アクティブラーニングの取組状況についての本学と高等学校における事例発表など、有意義な情報交換の場となりました。

また、教育交流の一環として、本学での見学会や特別授業、高校で行う模擬授業や職業別ガイダンス等も、毎年盛んに実施されています。

高大教育交流事業以外の高校生向けのイベントも行っています。今年度はオープンキャンパスを六月十日(土)と七月九日(日)、春のプレオープンキャンパスとして高短フェアを三月十一日(日)に開催します。本学に興味を持っている高校生に、ご案内ください。

着任のみなさん



まっぴりなびで
子ども学科

山口 昌澄

このたび子ども学科教員として着任しました山口と申します。三月までは熊本県の保育者養成短大にて十年あまり勤めておりました。ご承知の通り、昨年の地は震災に見舞われましたが、こうして皆さまと新たなご縁を結ぶ機会に恵まれましたことを、心より感謝いたします。

「卒業して四月になったら皆さんは、先生なのだから…」と、前任校でもよく口にしたものです。まさに今わが身にはね返ってくるようで、日々至らなさを痛感しております。

学生の皆さまとともに学び、私自身「やわらか心」を磨きつつ業務に取り組みたいと思えます。どうかよろしくお願いたします。



保育の魅力を感じられる指導を目指して
子ども学科

戸川 俊

以前は香川県で保育者を経験させていただき、その後、本年三月まで新潟県で保育者養成を行っておりました。保育者という職業は、子どもたちに対し、父母や友人の代わりとして育ちを支える職業であります。そして保護者や地域の方々など様々な人間関係により、保育は成立するものだと考えております。そのため、体力、精神力を消耗することもありますが、子どもたちが成長する姿や保護者の方々からの感謝の言葉は大変充実感を得ることが出来る職業であります。それら保育の魅力を授業や実習を通じて実感していただけるよう指導してまいります。よろしくお願いたします。



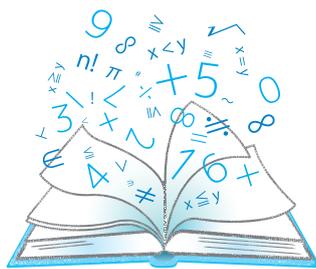
ご縁をやわらか心に
忘れずに
キャリア育成学科

中畑 裕之

ご縁があり、四月から高田短期大学のキャリア育成学科で務めさせていただきますこととなりました。

前職は百五銀行グループの百五総合研究所で、地域の産業・経済の動向調査や国・県・市町

から委託を受けての様々な調査や計画づくりのお手伝い、また地域企業の販路開拓やビジネスマッチングなどの企業支援を行って参りました。これまでの経験も活かし、学生さんのキャリア育成や大学の地域貢献の役に立てればと考えています。教育の現場は初めてですので、周りの方々に大変ご迷惑をかけることになると思いますが、ご指導の程よろしくお願いたします。



《人事》

○退職

キャリア育成学科長・教授
杉浦 礼子
子ども学科講師
小菅 千恵子

同窓会の近況

北端 一子

最近、シニアに対する健康講座や健康体操の催しが目につくようになってきました。歳のせいかな？と思います。その中の一つの講座に参加しています。最初に、血圧測定と健康相談をします。その後、毎日の生活の中で出来るちょっとした体操をしたり脳トレニングを楽しんだりしました。少しの時間で出来る体操は、今の私にぴったりでした。「無理をせず出来る範囲で、毎日一つでもするといいですよ」という言葉に、今まで全然していなかったの、頑張ってみようかなという気になりました。



さて今年も新しい理事が加わり二十九年度が始まりました。四月二十七日に、第一回の役員会があり、今年も同窓会として高短祭に参加して、バ



ザーをすることに話合いをいたしました。毎年の恒例となってきたバザーを楽しみにしている方々のために、続けていきたいと確認しました。収益金は、同窓会開催への補助に使っていただけるようにという目的で始めました。今まで多くの方の利用がありました。これからも、補助出来るようにバザーを続けたいと思いますので、出品物をお願いしたいと思えます。多くの方のご協力をよろしくお願いたします。ぜひ見に来て下さい。高短祭を楽しんで下さい。そしてなつかしい先生方や友達との再会を楽しみましょう。



卒業生からのメッセージ

「先生という立場になって」



子ども学科
平成二八年度卒
豊岡 香織
①道伯幼稚園②決
められたカリキュラ
ムをこなすことに一

生懸命になつてしまい、余裕がなくなることもありましたが、子ども達の成長を身近に感じられることがとても嬉しいです。③子ども達と一緒に考えたり、喜びや悲しみ、感動などが分かち合え、子どもの姿から自分自身教師として成長したいです。そして子ども達にとってより良い保育をしていけるようになりたいです。④沢山の仲間や、親身になつて話を聞いて下さる先生方と出会うことができ、楽しいことも辛いくとも仲間と支え合うことができました。専門的な知識はもちろんですが、人間的にも成長できた場所であると思います。⑤高田短期大学に在る二年間はあつという間なので、色々なことに挑戦して沢山のことを経験してほしいです。楽しいこともそうでないこともあります、そこで見たもの、感じたものは必ず就職してから役立つと思います。

「新たな一歩を踏み出して」



キャリア育成学科オフィスワークコース
平成二八年度卒
喜多村 莉帆
①百五銀行②窓口
までご案内させて
いただいたお客さま

に笑顔でありがとうとおっしゃっていたこと。配属先が決まり研修所と営業所を往復する日々で、出会う人や環境、銀行での業務などすべてが新しく不安を感じることもありましたが、失敗を恐れず何事にもチャレンジし、これから頑張っていこうという気持ちで一杯です。③あなたに任せてよかつたと言ってもらえる行員になりたいです。お客さまが抱えている不安は人それぞれであり、相手の気持ちを読み取ってその人に合ったものを安心・安全とともにお届けしたいです。④専門的な知識が学べるのももちろんのこと、先生や友だちと楽しいこと辛いことを共に経験し支えられながら成長できた場所です。⑤2年間は思っているよりもずっと短いです。新しいことを学び、沢山の人が会い、勉強も遊びも目一杯取り組んで将来への糧にしていくってください。

「二人の職員として」



キャリア育成学科介護福祉コース
平成二八年度卒
出馬 宏海
①特別養護老人
ホーム「報徳園」②
利用者と関わり合

えたとき。私の配属された現場では意思疎通が困難であったり会話のままならないという方が多く利用しています。相手の意思や訴えを理解するために些細な動作や発言に目が離せず、介助をしていて突然、泣き出したり怒つたりするということも珍しくありません。ですが、介助後や関わり後に笑顔を見せてくれたりや質問に対する答えや「ありがとう」などの言葉にこの仕事の魅力を感じています。③まずは最低限の業務と利用者一人一人に合った技術と知識を身に付けていきたいと思っています。また、利用者、職員、地域の方々との関わりも大切にしていきたいです。④高田短期大学は暖かみのある先生や個性豊かな仲間との出会い、人との繋がり大切さを学べる場所です。⑤目指したいことがあつたら積極的に挑戦し、人との出会いも大切にして、学校生活を楽しんでください。

公 告

平成28年度における学校法人高田学園の決算は次のとおりですので、当学園寄附行為第40条の規定に基づき公告いたします。

学校法人 高田学園
(単位：円)

貸借対照表 (平成29年3月31日)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(8,090,712,352)	(8,031,953,215)	(58,759,137)	固定負債	(242,057,435)	(238,628,844)	(3,428,591)
有形 固定 資産	(6,501,141,203)	(6,678,812,069)	(△177,670,866)	退職給与引当金	242,057,435	238,628,844	3,428,591
土 地	1,025,122,922	1,023,266,286	1,856,636	流動負債	(442,904,702)	(583,008,194)	(△140,103,492)
建 物	4,169,568,065	4,299,888,123	△130,320,058	短期借入金	0	130,000,000	△130,000,000
構築物	934,698,215	977,847,178	△43,148,963	未払金	47,707,087	71,565,118	△23,858,031
教育研究用機器備品	100,556,883	110,276,936	△9,720,053	前受金	311,043,000	296,998,796	14,044,204
管理用機器備品	8,055,420	6,611,084	1,444,336	預り金	24,825,725	26,757,975	△1,932,250
図 書	221,229,666	218,669,236	2,560,430	修学旅行費預り金	52,524,456	52,488,500	35,956
車 輛	11,490,554	12,333,748	△843,194	卒業諸費預り金	6,804,434	5,197,805	1,606,629
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	負債の部合計	(684,962,137)	(821,637,038)	(△136,674,901)
建設仮勘定	500,000	0	500,000	純資産の部			
特定資産	(1,490,250,000)	(1,282,484,107)	(207,765,893)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
退職給与引当特定資産	312,490,000	261,008,500	51,481,500	基本金	(11,832,063,401)	(11,643,003,673)	(189,059,728)
施設設備拡充引当特定資産	1,177,760,000	987,344,807	190,415,193	第1号 基本金	11,660,063,401	11,462,003,673	198,059,728
長期火災保険特定資産	0	34,130,800	△34,130,800	第4号 基本金	172,000,000	181,000,000	△9,000,000
その他の固定資産	(99,321,149)	(70,657,039)	(28,664,110)	繰越収支差額	(△3,950,111,393)	(△3,939,838,173)	(△10,273,220)
借地権	2,257,500	2,257,500	0	翌年度繰越収支差額	△3,950,111,393	△3,939,838,173	△10,273,220
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	純資産の部合計	(7,881,952,008)	(7,703,165,500)	(178,786,508)
施設利用権	579,040	659,750	△80,710	負債及び純資産の部合計	(8,566,914,145)	(8,524,802,538)	(42,111,607)
ソフトウェア	1,645,920	1,652,400	△6,480				
有価証券	80,070,136	49,946,674	30,123,462				
差し入れ保証金	350,000	350,000	0				
長期前払金	13,132,573	14,504,735	△1,372,162				
流動資産	(476,201,793)	(492,849,323)	(△16,647,530)				
現金預金	327,081,217	298,368,451	28,712,766				
未収入金	50,957,029	104,512,435	△53,555,406				
前払金	578,440	471,180	107,260				
立替金	38,266,159	31,812,923	6,453,236				
修学旅行費預り資産	52,524,456	52,488,500	35,956				
卒業諸費預り資産	6,794,492	5,195,834	1,598,658				
資産の部合計	(8,566,914,145)	(8,524,802,538)	(42,111,607)				

就職先等一覽

子ども学科

公立幼稚園

新宮市立丹鶴幼稚園、志摩市立鶴方幼稚園、志摩市立志摩幼稚園、志摩市立立安東幼稚園

私立幼稚園

あおい幼稚園、桜あおい幼稚園、すずか幼稚園、津西幼稚園、道伯幼稚園、ときわ幼稚園、まきは幼稚園、まつさか幼稚園、みずきが丘道伯幼稚園

公立保育園(所)

伊勢市立大世古保育所、伊勢市立御園第二保育園、伊勢市立ゆりかご園、亀山市立加太保育園、孤野町立朝上保育園、孤野町立鶴川原幼稚園、孤野町立竹永幼稚園、志摩市立磯部保育所、志摩市立志島保育所、志摩市立ひまわり保育所、鈴鹿市立河曲保育所、鈴鹿市立神戸保育所、鈴鹿市立算所保育所、鈴鹿市立玉垣保育所、大紀町立大内山保育園、玉城町立田丸保育所、津市香良洲保育園、津市北口保育園、津市相愛保育園、津市高茶屋保育園、津市高野保育園、津市立誠保育園、津市千里ヶ丘保育園、津市野村保育園、津市上野保育園、松阪市立大河内保育園、松阪市立三郷保育園、松阪市立花岡保育園、松阪市立若草保育園、明和町立さかえ保育所

私立保育園

愛華保育園、あけの保育園、あけほの保育園、いそやま保育園、上浜保

育園、嬉野保育園、大川乳幼児保育園、尾鷲乳児保育園、風の子藤水保育園、片田保育園、亀山愛児園、かもめ保育園、川崎愛児園、かわしま保育園、神戸保育園、くまだ保育園、光陽桑部第二保育園、このこ保育園、さくら保育園、サラナ保育園、しまの杜保育園、すぎのこ保育園、たいすい保育園、第二長太の浦保育園、第二はなこま保育園、長寿保育園、つ保育園、つまちなか保育園、デイスカバリーNursery、なのはな保育園、にじいろ保育園青葉台、西浦保育園、はなこま保育園、ひかり保育園、久居保育園、日永保育園、フジ保育園、ぼだいじ保育園、マリア保育園、三重愛育保育園、みどり保育園(松阪市)、みやま保育園、わかすぎ第二保育園、わかすぎ保育園、若葉保育園

公立認定こども園

伊勢市立しこうこども園、亀山市立開認定こども園アスレ、明和町立みょうじょうこども園

私立認定こども園

暁の星こども園、こどもの杜ゆたか園、白百合幼稚園、聖マリアこども園、ぼだいじこども園、マリアこども園、みらいの森ゆたか園、明和ゆたか園、杜の街ゆたか園、ゆたかこども園

児童養護施設等

エスベランス四日市、桜島児童保育ももたろう、児童養護施設真盛学園、鈴鹿里山学院、津市たるみ児童福祉会館、名張養護学園、乳児院エスベランス四日市、聖の家、放課後子ども教室「ほくせい」、みどり自由学園

障害者・老人施設

障害者支援施設こいしらの里、障害者支援施設和順学園、生活介護事業所「この結」、三重済美学院

企業

(株)第三銀行、(株)リトルアンデルセン、アースミニエレクトリック&エレクトロジ、白山開発(株)

進学

相山女学園大学、京都デザイン専門学校、松阪看護専門学校

キャリア育成学科(オフィスワークコース)

製造業 (株)エスケイ、(株)トピア、(株)中勢ゴム
建設業 船谷建設(株)
情報通信業 (株)ピコナレッジ
運輸業・郵便業 (株)日本陸送
卸売業・小売業 ITEX(株)、旭工機(株)、(株)エムワン、(株)クスハラ自動車(株)シュガーマトリックス(株)スズキ自販三重、(株)津松菱、(株)東海セイムス、(株)マツオカ、(株)ミツイパウマテリアル、ダイヤ燃焼(株)、トヨタカローラ三重(株)、中北薬品(株)、三重いすゞ自動車(株)、三重トヨタ自動車(株)、山商事(株)

金融業・保険業

(株)第三銀行、(株)百五銀行、(株)三重銀行

学術研究・専門・技術サービス業

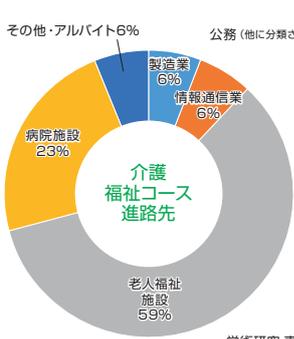
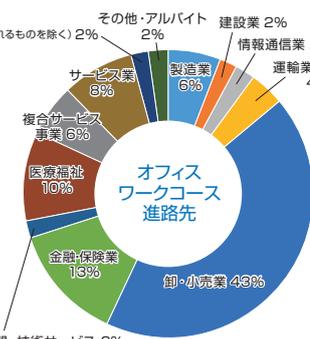
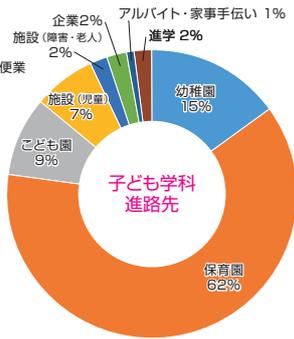
国土交通省中部地方整備局紀勢

国道事務所

医療・福祉 (医)社団鷲尾小児科、(医)さくら歯科、(医)上島小児科、丸の内まつなが眼科、村瀬病院グループ

複合サービス事業

津安芸農業協同組合、松阪農業協同組合、三重中央農業協同組合



サービス業

(株)アトムズ、ネクステージ(株)、百五不動産調査(株)

公務(除く、他分類)

(株)トヨタレンタリース三重、三重県警察事務

キャリア育成学科(介護福祉コース)

製造業 富士印刷(株)
情報通信業 (株)セガインタラクティブ
老人福祉施設 (社)福あがた福祉の会、(社)福(三重)ベタニヤ、(社)福)洗心福祉会、特別養護老人ホーム)志摩シルバークアア豊壽園、(社)福)桑名市社会福祉協議会、就労継続支援型A型事業所「トモス」、(社)福)高田真善会(特別養護老人ホーム)報徳園、(社)福)高田福祉事業協会、養護老人ホーム)高田慈光院、(社)福)洗心福祉会(老人保健施設)ふたみシルバーケア豊壽園

病院施設

(医)風林会榊原白鳳病院内介護老人保健施設さくら苑、富田浜病院グループ、村瀬病院グループ

編集後記

皆様のご協力によりまして、高田短期大学通信第五十二号発行の運びとなりました。今号は、本学の女子サッカー部の活動に加え、女子バレー部の活動等についても掲載いたしました。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

※「高田短期大学通信」題字デザインは、卒業生 南 由佳さんの応募作品を元に作成しました。